

## 4 研究部

### (1) 校内研修

#### ① 校内研修全体計画

##### 1 本年度の研究主題

**自他を大切にすることの育成**  
～一人一人の自己肯定感を高める取り組みを土台として～

##### 2 児童の実態

- 自己肯定感が低いことから対人関係におけるトラブルが増えたり、学習面の意欲が高まりにくかったりする児童が多く、そのことが楽しい学校生活の実現を阻む要因となっている。
- 学力面では基本・応用ともに課題はあるが、応用的な問題になると無回答が増える傾向にある。
- 各学年で個人差があるが、学年によっては二極化がとても大きい傾向が見られる。

##### 3 研究主題設定の理由

- 春竹小学校は人権尊重の精神を基盤とした教育を展開する。子どもたち一人一人にとって、生活の一部である学校生活を楽しく有意義なものにしてほしい。学力面においても、生活面においても根幹となる自己肯定感を高めることで、よりよい学校生活にし、さらには将来的にも自信をもって自己実現に向かえるように支援していきたい。
- 予測が難しい社会情勢の中、課題を発見し、仲間と共働することで解決していく力が必要となる。学校教育においても子ども同士が「学び合う」機会を増やし、子どもたちの資質・能力を育てていく面での授業改善を進めていきたい。自他を大切に、互いに学び合う関係の土台が自己肯定感であり、本校では〈自分のあり方を積極的に評価できる感情〉と定義する。

##### 4 本年度の教育重点目標と具体的取り組み事項

教育努力目標：自分と相手を大切に、夢に向かって互いに学び合う子どもの育成  
～やさしさいっぱい 夢がいっぱい あいがあふれる 春竹小学校～

##### 具体的取り組み事項

- 【自信を持って】自己肯定感の向上と主体性の育成 【よく働く】心身ともに健康な体の育成
- 【人にやさしく】自他を大切にすることの育成 【春竹の子ども】共通実践・授業で子どもを育てる
- 【進んで学び】学び合いによる学力の向上 【メリハリのある働き方とチーム春竹での学校づくり】

##### 5 研究の仮説

- 仮説①：自己肯定感を6つに細分化し、職員一人一人の課題に応じた具体的な取り組みを継続的に行えば、児童の自己肯定感が高まるであろう。
- 仮説②：自己肯定感を高める取り組みや工夫点について職員間で情報を共有し、一人一人が実践に落とし込んでいけば、学校全体として自他を大切にすることの育成を進めていけるであろう。

##### 6 研究の視点

##### 視点1 自己肯定感を構成する6つの感に着目した具体的・継続的な取り組み

- 自尊感情・自己受容感・自己効力感・自己信頼感・自己決定感・自己有用感の6つに着目しあらゆる教育活動において自己肯定感の育成にアプローチする。

##### 視点2 個人の課題に正対したテーマ設定と定期的な振り返り

- 自身の課題に正対し、定期的な振り返りを行うことで教師の成長につなげる。
- 他者の実践に学ぶことで自身の実践を振り返る「教師の学び合いの場」をつくる。